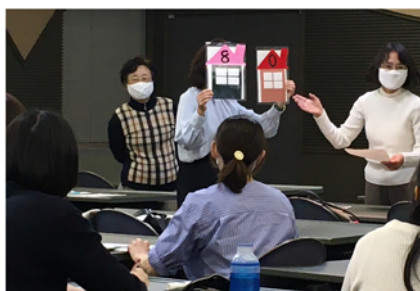


11月25日(水)東区・博多区、26日(木)南区・中央区・城南区、27日(金)西区・早良区と、総合図書館で「第2回学校司書研修会」が行われました。

研修内容は、学校司書から各学校の取り組みや業務内容での工夫の紹介と交流、また、学校図書館支援センターから学習支援用図書について、著作権についての提案、さらに、図書館環境整備に役立つ掲示物づくりを実技を交えて行いました。盛りだくさんの研修でしたが、参加者のみなさんが学校司書として日頃からさまざまな工夫をされて、子どもたちの読書活動推進をされているのがよくわかりました。

特に、学校(主に司書教諭)との連携については「連絡交換ノート」を使って行われている学校が多く、そのご苦勞が伝わってきました。蔵書点検、除籍処理、図書購入などに加えて、授業使用図書の準備、読み聞かせ・ブックトークなど、学校司書ならではの専門性を生かし取り組んでおられる様子でした。

本年度は、全てがコロナ禍の中の活動になり、学校図書館開館も例年以上に気を遣われることが多かったことと思います。そんな中ではありますが、学校図書館が持つ「読書センター」「学習センター」「情報センター」の3つの機能が、子どもたちの学習の場で発揮されるよう、それぞれの環境を整えていきたいものです。



本の帯を使った1月の展示・掲示



新しい年の始まりです。本の帯を使ってお正月の飾り付けの一つとして、しめ縄を作り、図書館に掲示してみましょう。



箱の中におめでとうのあいさつを帯の裏に書きました。手前の毬はティッシュを丸めて、帯を巻いています。つやのある帯を使うと華やかになります。



長方形の帯を半分に折り、くるくる丸めて両端をホッチキスで止めます。飾りは子どもたちの自由な発想と共に、一緒に作ってみましょう！



Hello! 学校図書館

今月は、昨年度、「福岡県学校図書館コンクール」で優秀賞を受賞された、博多区にある児童数266人、12学級の東光小学校の図書館を紹介します。コロナ禍の中、年末の12月末の訪問でしたが、校長先生が笑顔で迎えてくださり、図書館まで案内していただきました。

図書館までの環境、また、「読書センター」「学習センター」「情報センター」の3つの機能がしっかりと果たされていることに感心しました。学校図書館のモデルとして、学ぶところが多い取り組み、環境でした。

図書館までの環境の工夫 その1

学年	4-5月	6月	7月	8-9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
1年1組	880	461	652	1113	942	664	608	403	557	822	5197
1年2組	1128	602	537	2267	1060	394	525	518	401	299	5414
2年1組	440	320	311	364	1435	212	216	426	426	300	2873
2年2組	649	667	633	651	2600	612	658	408	494	624	3215
3年1組	335	353	254	304	1246	894	707	301	621	312	3174
3年2組	362	428	361	420	1571	312	431	412	362	412	3821
4年1組	846	581	288	705	2420	050	1220	627	521	487	6352
5年1組	1264	801	666	605	3336	618	640	589	615	571	3315
6年1組	594	403	368	770	2135	358	501	331	311	390	1034
6年2組	413	246	181	397	1237	333	575	212	317	264	1963
ひかり組	71	99	33	27	230	111	159	41	40	32	386
合計	4774	5706	4118	5432	20706	5676	6145	4340	4144	4324	35160

今年度の目標は、45000冊！ どんな書と出会えるのか楽しみです！

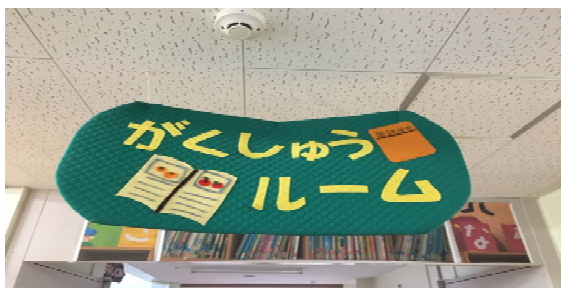


1階廊下に全校児童の読み上げ冊数や東光小おはなし会の掲示がしてあり、学校全体で子どもたちの読書活動を推進されているのがよくわかります。



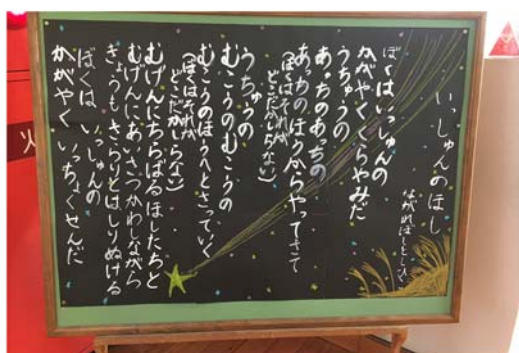
各学級の「読んでみて！」が掲示してあり、子どもたちが楽しみながら読書をしている様子が目に浮かぶようです。

図書館までの環境の工夫 その2



手作りの看板が下げてあり、あたたかさを感じます。「おはなしどおり」というネーミングもすてきですね。

季節が感じられる掲示物の工夫



大きなクリスマスツリーの下にクリスマスの本が並べてありました。思わず手に取りたくなります。

「読書センター」としての工夫



それぞれの書架、カウンター周りと本がきれいに整理され、どこにどんな本があるのかよくわかります。

また、「あたらしい本コーナー」「立志応援コーナー」「図書委員会おすすめの本コーナー」と、子どもたちが本を探しやすい工夫がされていて、本選びにわくわくしそうです。

※「学習センター」「情報センター」としての工夫は2月号で紹介します。

2月生まれの文学者



佐藤 暁（さとう さとる）と「だれも知らない小さな国」

1928年2月13日神奈川県横須賀市生まれ 2017年 没

佐藤氏は、読むことと物語の筋を考えるのが子どもの頃から好きで、道を歩きながら寝ながら暇さえあれば話の筋を考えていましたが、書く方は全然だめでした。しかし、小学生全集などを精読し、いつかこの全集の話のような魂にひびくおもしろい話を書きたいと思っていたそうです。

1954年秋、実業之日本社で、今まで温めていた物語をもう少し上手に書きたいと思うようになり、暇を見つけては、「だれも知らない小さな国」を書き始めました。日本初のファンタジー小説と言われるこの作品は、何度も書き直しをしたため第3稿の決定稿ができるまで書き始めて足掛け5年かかりました。最初は自費出版でしたが、のちに講談社から出版され、毎日出版文化賞などを受賞しました。

佐藤氏の作品は、「コロボックル物語」シリーズ、「おばあさんのひこうき」（野間児童文芸賞、厚生大臣賞）などあります。

舟崎 克彦（ふなざき よしひこ）と「ぼっぺん先生の日曜日」

1945年2月2日 東京都中央区生まれ 2015年 没

舟崎氏は、豊かな自然の中で幼少年期を過ごしました。就職してからは、横浜までの通勤する往復時間に植物や博物関係の本を読むだけでなく、目に入る植物をすべて覚えるため、いつもポケットに図鑑をしのばせていました。

「ぼっぺん先生の日曜日」は、それまでの作品のほとんどが夫婦共作だった舟崎氏が初めて一人で書いた作品です。舟崎氏は、「今までにちょっとない作品」と言われるのが一番名誉と思っており、人生の中で自分しか書けない作品を残しておきたいというのが生き甲斐だったそうです。

舟崎氏の作品は、「雨の動物園」（サンケイ児童出版文化賞、国際アンデルセン賞優良作品）、「あのこがみえる」（ボローニャ国際児童図書展子どもの本の部グラフィック賞推奨）、「悪魔のりんご」（日本絵本賞）、「ぼっぺん先生」シリーズ（山本有三記念路傍の石文学賞）などあります。

（あしがき）

新しい年、令和3年が始まりました。今年は例年とちがった冬休みを過ごした子どもたちも多かったのではないのでしょうか。今年の干支「丑」は、十二支の2番目に位置します。十二支は生命のサイクルを12段階で示しているといわれています。「丑」は、発芽直前の曲がった芽が種子の硬い殻を破ろうとしている状態、命の息吹を表しているとのこと。「読書は心の栄養」とよく言われます。丑年にふさわしく、たくさんの本と出会い、たくさんの言葉に出会い、想像力を高めて、心豊かになり、自分の殻を破って成長してほしいと願っています。今年もよろしくお祈りします。

（足立）

図書館員のひみつの本棚 第177回

今年もよろしくお祈いします。今年の本目録は図書館に関する本です。

『戦場の秘密図書館 ～シリアに残された希望～』

マイク・トムソン／著 小国 綾子／訳 文溪堂 2019年 ¥1500 (税別)

<お勧め年齢>

乳幼児☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年☆☆☆ 小高学年★★☆ 中学生★★★

高校★★☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

2011年に始まった内戦が現在も続くシリアの都市に、秘密の地下図書館があるらしい！

この本は2015年にその噂を聞きつけた英国放送協会(BBC)の海外特派員だった著者が、ジャーナリストでも近づくことができない危険地帯で図書館を開館している人々へ、インターネット通話やSNSを通じて取材した記録です。

なぜ戦場の真ただ中に図書館を作ったのか。誰がどんな目的で作ったのか。1万4千冊を越えると言われる蔵書はどこからきたのか。そして、封鎖された町で、爆撃におびえながら、食べ物にも困っている人々が図書館にくるのだろうか。

図書館で働く者として、涙なしには読めない1冊でした。

<子どもに手渡す時のポイント>

巻頭に秘密図書館についての豊富なカラー写真のページと、シリアの内戦事情を、<秘密図書館をめぐるできごと>として箇条書きの時系列で書いたページがあるので、最初に目を通してもらうよう勧めると、本文への理解が深まるのではないのでしょうか。

STAY HOMEの今だからこそ、子どもたちには本を通して広い世界に目を向けてもらいたいと思います。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

発行：福岡市教育委員会 総合図書館 図書サービス課

電話：092-852-0639

FAX：092-852-0801